

色彩語の意味分析

一日英語（みどり，green）比較を中心として一

A Semantic Analysis of Color Terminology: On the Comparison of Japanese (Midori) and English (Green)

野中 博雄

要 約

本稿では、日本語色彩語「みどり」と英語色彩語「green」が象徴する意味の分析に焦点を当て、両者間にみられる共通点や相違点の比較を試みた。日本語の「みどり」と英語の「green」の象徴的意味を、「始原的意味（理論的に仮定した、派生の最初となる意味）」からの連想による派生として連関図にまとめ、比較することにより、以下の項目において日英色彩語の共通点、相違点が指摘された。

- (1) 始原的意味の共通点と相違点.
- (2) 両言語の色彩語の持つ象徴的意味の相違.
- (3) 両言語の色彩語の持つ語義数の相違.
- (4) 両言語の色彩語の連想グループの分布の相違.
- (5) 上記 (1) ~ (4) の項目において類似性の高い色彩語と類似性の低い色彩語.

キーワード：色彩語，象徴的意味，始原的意味，派生，連想連関図

序

本稿の目的は、日本語「みどり」と英語「green」の象徴的意味を連想による連関図にまとめ、それらの相違点、共通点を比較、検討することにある。

本論の先行研究としては、大月論文「多義語の意味分析の方法について」（大東文化大学紀要，第31号，1993）¹⁾の英語のred, white, blackの意味分析，野中・斎論文「色彩語の意味分析一日英比較を中心として一」（桐生短期大学紀要，第10号，1999）²⁾の日本語「赤，白」と英語「red, white」の比較，また野中論文「色彩語の意味分析一日英比較を中心として一」（桐生短期大学紀要，第13号，2002）³⁾の日本語「青，黒」と英語「blue, black」の比較がある。

大月¹⁾は色彩語の象徴的意味を始原的意味からの派生により分析する方法を提案した。野中・斎²⁾，野中³⁾は，大月¹⁾の始原的意味の設定条件に検討を加え，日英語の色彩語の象徴的意味の比較に応用した。

日英色彩語の象徴的意味の比較の一例として，色彩

語の類似性を，共通する象徴的意味数からみることができ。野中・斎論文²⁾によると「赤，red」が9語，「白，white」が3語，野中論文³⁾によると「青，blue」が0語，「黒，black」が5語となった。共通の象徴的意味数の多い順に並べてみると，「赤，red」(9) > 「黒，black」(5) > 「白，white」(3) > 「青，blue」(0) となった。従って類似性も高い順に「赤，red」，「黒，black」，「白，white」，「青，blue」になるということがいえる。本稿において「みどり，green」を検討することにより，さらに日英色彩語の象徴的意味の比較研究が進むことを期待する。

方法論

大月論文¹⁾では英語の色彩語の象徴的意味の分析を「理論的に仮定した，実際の語源的意味とは限らない『始原的意味』からの連想（意味的に共通部分を有する異なった概念への展開）による派生を連関図で示す方法が提示された。

野中・斎論文²⁾では，「始原的意味」の設定にあた

り「言語に共通する『語源的要素』も考慮することにより、より妥当性のある連想チャートが作成可能となり、日英色彩語の象徴的意味の比較が容易で、明確になる」ことを示唆し、日英色彩語「赤, red」の比較において、日本語「赤」の始原的意味を「血」, 「火」, 「明」の3語とし、英語「green」の始原的意味を「血」, 「火」の2語とした。また日英色彩語「白, white」の比較において、両言語に共通する始原的意味「光」, 「無色・無染/汚」の2語を設定した。

さらに野中論文³⁾では、「日英語の色彩語の象徴的意味の比較において、各言語の共通する基本概念と異なる基本概念を類推・設定し、その基本概念(始原的意味)からの派生としてチャート化する方が、言語比較の基準表としての妥当性がある」と考え、そのために始原的意味の設定条件を以下の様に提示した。

- I 同じ象徴的意味を持つ語の多い意味から設定する。
- II 身近に存在する具象的な語で、共時的、通時的である語の設定。
- III 言語間においても共通する語の設定。

この方法により、野中論文³⁾では、日英色彩語「青, blue」の比較において、始原的意味を日本語「青」を「青空」, 「草木の青」の2語とし、英語「blue」は「青空」の1語。日英色彩語「黒, black」の比較において、日本語「黒」を「闇」, 「黒髪」の2語、英語「black」は「闇」の1語で連想による派生チャートを作成し、比較した。

本稿においても同様の始原的意味の設定条件を援用して日英色彩語「みどり, green」の象徴的意味の分析と他の色彩語との類似性について比較検討する。

日英色彩語「みどり」, 「green」の象徴的意味

日本語では、「みどり」を表す漢語として、「緑(りょく, ろく)」が使われるが、「大辞泉」⁴⁾, 「大辞林」⁵⁾, 「広辞苑」⁶⁾より「緑」を使い、象徴的意味を持つ語を拾った。同じ象徴的意味を表す語には、同じカナ記号でまとめた。

- (ア-1) 緑児(りょくじ, みどりご) : 大宝令で、三歳以下の男児の称。
= 幼さ
- (ア-2) 緑女(りょくじょ) : 大宝令で、三歳以下の女児の称。

= 幼さ

- (イ-1) 緑髪(りょくはつ) : 黒くつやのある髪。みどりのくろかみ。みどりのかみ。
= つやのあること
- (イ-2) 緑の髪 : つやのある美しい髪。
= つやのある美しさ
- (イ-3) 緑の黒髪 : 黒くつやのある美しい髪。
= つやのある美しさ

上述のごとく「みどり」の象徴的意味は「幼さ」と「つやのある美しさ」の2つであり、語数は「幼さ」が2語、「つやのある美しさ」が3語である。また「緑児」, 「緑女」が大宝令で定められたのは701年であるのでその頃に象徴的意味「幼さ」が付与されたと考えられる。

さらに「みどり」の象徴的意味数が少ない点も指摘される。他の色彩語の場合、日本語の「赤」は15語、英語の「red」は13語、日本語の「白」は10語、英語の「white」は8語であり²⁾, 日本語の「青」は10語、英語の「blue」は11語、日本語の「黒」は10語、英語の「black」は11語であった³⁾。

「みどり」の象徴的意味数が少ない理由の第一としては、日本語「青」の色名対象が「青空の青」から「草木のあお(=みどり)」までも含まれていたことが考えられる。そのことを証明する言語現象もいくつか挙げられる。以下に示す。

- ①日本語の「みどり」は「青」に包含され、「みどり」色のものを「あお」と表現する習慣があった。現在でも年輩者で「みどり」のことを「あお」と表現する人もいる。「みどり色の信号」のことを「青信号」と言うこともその例である。
- ②小松⁷⁾は『『あお』を前部要素に持つ複合語はほとんどすべてミドリ色の対象をさす』として「青葉, 青菜, 青海苔, 青物, 青リンゴ, 青桐, 青虫, 青竹, 青豆, 青畳, 青ビョウタン, 青二才, 青水泥(アオミドロ)」を例にあげている。このことも日本語「青」の色名対象が「青空の青」から「草木のあお(=みどり)」までも含まれていたことの証である。
- ③野中³⁾では「草木が青い」の始原的意味から「若さ」, 「未熟」, 「身分の低さ」, 「記録」の象徴的意味が派生している。英語「green」においても象徴的意味の「若さ」, 「未熟」は共通している。このことより、日本語の「青」の「草木のあお(=みどり)」の部分が英語の「green」に相当するともいえる。

「みどり」の象徴的意味数が少ない理由の第二としては、日本語の基本色彩語は意味的にも語形からも「青」、「赤」、「白」、「黒」といわれている。その理由として形容詞変形「～い」(例:「青い」、「赤い」、「白い」、「黒い」)、副詞変形「～くなる」(例:「青くなる」、「赤くなる」、「白くなる」、「黒くなる」)、名詞変形「～さ」(例:「青さ」、「赤さ」、「白さ」、「黒さ」)、強調変形「真～」(例:「真青」、「真赤」、「真白」、「真黒」)、疊語変形「～々」(例:「青々」、「赤々」、「白々」、「黒々」)などが可能になるのはこれらの色だけである。「みどり」はそれらの変形は不可能である。故に、日本語の中で使用されてきた歴史は「青」、「赤」、「白」、「黒」より浅いといえる。従って日本語色彩語「みどり」としての象徴的意味の数もそれらより少なくなると推測できる。

次に、英語の「green」を含み、象徴的意味を表す語を、「新英和大辞典(第5版)⁸⁾」、「ランダムハウス英和大辞典(第2版)⁹⁾」より拾った。同じ象徴的意味を持つ語は同じ記号でまとめた。

- (a-1) green old age: 元気な老齢。
= 元気
- (b-1) a green wound: 生傷。
= 新鮮さ, 新しさ
- (b-2) green recollections: 生々しい思い出。
= 新鮮さ
- (b-3) green meat: 新鮮な肉。
= 新鮮さ
- (b-4) evergreen: いつまでも新鮮な。常緑の。
= 新鮮さ
- (c-1) green fruit: 未熟な果実。
= 未熟
- (c-2) a green youth: 青二才。
= 未熟
- (c-3) a green hand: 未熟者。
= 未熟
- (c-4) green cheese: 未熟成のチーズ。
= 未熟
- (c-5) green liquor: 熟成していない酒。
= 未熟
- (d-1) be green with envy: うらやましさと顔の青ざめた。
= うらやましさ
- (e-1) be green with jealousy: 嫉妬で顔が青ざめている。
= 嫉妬

- (e-2) green-eyed: 嫉妬深い, 怪気深い
= 嫉妬
- (f-1) greenhorn: 未経験な人。青二才。だまされやすい人。
= 未経験
- (f-2) a green girl: 処女。生娘。
= 未経験
- (g-1) greenhorn: 未経験な人。青二才。だまされやすい人。
= 若さ
- (h-1) greens: 性交
= 性交
- (i-1) the green light: 青信号。安全信号。
= 安全。許可。

上述のごとく「green」の象徴的意味は「元気」、「新鮮さ、新しさ」、「未熟」、「うらやましさ」、「嫉妬」、「未経験」、「若さ」、「性交」、「安全、許可」の9つである。語数は「元気」が1語、「新鮮さ、新しさ」が4語、「未熟」が5語、「うらやましさ」が1語、「嫉妬」が2語、「未経験」が2語、「若さ」が1語、「性交」が1語、「安全、許可」が1語となっている。

(e-1) のgreenhornには「未経験」、「若い」の2つの象徴的意味が存在するが、これは英語において、「未経験」と「若い」の象徴的意味が連関図上近い関係にあることを意味する。従って「若い」から「未経験」へと一段階で連想するとみる方がよいと推測できる。また(d-1)の“be green with envy”と(e-1)の“be green with jealousy”においても、辞書の分類では同じ項目に分類されているが、象徴的意味はそれぞれ「うらやましさ」と「嫉妬」に分別されると考える。

日英色彩語「みどり」、「green」の始原的意味の設定・連関図

節では日本語色彩語「みどり」と英語色彩語「green」の始原的意味の設定を考察し、両言語の象徴的意味の連関図の作成を試みる。

まず「みどり」、「green」の始原的意味の設定にあたり、条件I:「同じ象徴的意味を持つ語の多い意味から設定する」から考察する。

日本語色彩語「みどり」の場合、前節3で指摘したように象徴的意味は「幼い」と「つやのある美しさ」の2つであり、語数は「幼い」が2語、「つやのある美しさ」が3語である。髪の毛の「つやのある美しさ」は「若さ」故、生じることである。本来日本語色彩語

「みどり」が「青」に包含されていて、「青」のチャートでは「草木が青い」の始原的意味から「若さ」, 「未熟」, 「身分の低さ」, 「記録」の象徴的意味が派生している。語義数は「若さ」が2語, 「未熟」が5語, 「身分の低さ」が3語, 「記録」が2語あるという点も考慮すると, 日本語色彩語「みどり」の場合も「草木が青い (=みどりである)」を始原的意味と設定するのに妥当性があると考えられる。

日本語色彩語「青」の中で, 同じ象徴的意味を持つ語で語数の多い「未熟」も「人や植物の若さ」からの連想として考えられる。また設定条件Ⅱ: 「身近に存在する具象的な語で, 共時的, 通時的である語の設定」の観点からも日本語色彩語「みどり」の始原的意味の設定は「草木の緑」が妥当ではなかろうか。日本語色彩語「みどり」が「青」に包含されていた期間は「草木のあお (=みどり)」から「若さ」, 「未熟」, 「身分の低さ」, 「記録」などの象徴的意味が付加され, 日本語色彩語「青」と区別する新しい概念の「みどり」が生まれてから後は「幼さ」や「つやのある美しさ」の象徴的意味が付加されたと推測できる。

始原的意味の設定にあたり, 語源的要素も考慮に入れる。日本語「みどり」の語源について「日本語源大辞典¹⁰⁾」を引用する。

みどり【緑・翠】(名) 元来は新芽の意で, そこから色名に転じたといわれる。

色の名。青と黄との間の色。草木の葉のような色。七色の一つ。また光の三原色の一つ。(万葉8C後)

【語源説】

- ①ソニトリイロ(翠鳥色)の略転<雅言考・菊池俗言考・大言海>。
- ②ミズイロ(水色)の略転<国語の語根とその分類=大島正健・日本語原学=林甕臣・大言海>。
- ③ミズヲリ(水居)の義<日本語原学=林甕臣>。
- ④ミズトリ(水鳥)の義<名言通>。
- ⑤水気の潔き色の意<言語の根しらべ=鈴江潔子>。
- ⑥ミトリ(水取)の意<紫門和語類集>。
- ⑦メテリ(芽出)の義<言元梯>。芽出るの意から<琉球古今記=伊波普猷>。メ(芽)の派生語から<日本古語大辞典=松岡静雄>。
- ⑧ミヅ(雅)の語から。雅は若き意<海録>。
- ⑨ミトマリ(実留)の転<紫門和語類集>。
- ⑩動詞ミダル(乱)の連用形ミダリから<続上代特殊仮名音義=森重敏>。

上記引用より, 「みどり」の語源として具象性のある

語は「鳥の羽根の色」, 「水の色」, 「草木の芽の色」であるが, 現代人においても「みどり」で連想するのは「植物のみどり」であり, 共時的にも通時的にも普遍性が高い。このことも始原的意味の設定条件Ⅱ: 「身近に存在する具象的な語で, 共時的, 通時的である語の設定」に符合する。しかしながら始原的意味の設定の場合, 語源的要素は考慮に入れるが, 各語源説の是非はここでは論じない。

次に, 英語の「green」に関して考察する。前節3のごとく「green」の象徴的意味は「元気」, 「新鮮さ, 新しさ」, 「未熟」, 「うらやましさ」, 「嫉妬」, 「未経験」, 「若さ」, 「性交」, 「安全, 許可」の9つである。語数は「元気」が1語, 「新鮮さ, 新しさ」が4語, 「未熟」が5語, 「うらやましさ」が1語, 「嫉妬」が2語, 「未経験」が2語, 「若さ」が1語, 「性交」が1語, 「安全, 許可」が1語となっている。始原的意味の条件Ⅰ: 「同じ象徴的意味を持つ語の多い意味から設定する」点からみると, 「未熟」が5語と最も多い。これは日本語の「みどり」の始原的意味の設定と同様に「草木の緑」を想定し, その派生として「未熟」, 「元気」, 「新鮮さ, 新しさ」, 「うらやましさ」, 「嫉妬」, 「未経験」, 「若さ」, 「性交」, 「安全, 許可」が関連付けられる。これは始原的意味の設定条件Ⅲ: 「言語間においても共通する語の設定」とも合致する。

次に英語の「green」と「grass」の語源について, インターネットの英語語源サイトから引用する。

Green: O.E. grene, earlier groeni, related to O.E. growan "to grow," from W.Gmc. *gronja- (cf. O.Fris. grene, O.N. grann, Dan. gron, Du. groen, Ger. grun), from PIE base *gro- "grow," through sense of "color of living plants."

(<http://www.etymonline.com/index.php?search=green&searchmode=none>)¹¹⁾

Grass: O.E. gras, gars "herb, plant, grass," from P.Gmc. grasan (cf. O.N., Ger., Goth. gras), from PIE *ghros- "young shoot, sprout," from base *gro-/*gre- "that which grows" (cf. L. gramen "grass"); related to grow and green.

(<http://www.etymonline.com/index.php?search=grass&searchmode=none>)¹¹⁾

「green」は印欧共通祖語の*gro- "grow" から来ており, 「植物が育つ」ことを意味する。「grass」も同じ印欧共通祖語を持つことが記されている。語源的にも

日本語の「みどり」と英語の「green」は共通していると言える。このことも始原的意味の設定条件Ⅲ：「言語間においても共通する語の設定」に合致する。以上の考察により日英語「みどり, green」の始原的意味として「草木の緑」を設定することが妥当であると考えられる。

次に「草木の緑」からの連想について論をすすめる。連想による派生の根拠について次に示した。

- ①「草木の緑」→「若さ」：
草木の緑には若々しさがある。
- ②「草木の緑」→「新鮮さ」：
草木の緑は新鮮に感じる。
- ③「草木の緑」→「嫉妬」：
人間の顔色が緑色（欧米では青みがかかった緑）だと「嫉妬」が原因の場合がある。
- ④「草木の緑」→「うらやましさ」：
人間の顔色が緑色（欧米では青みがかかった緑）だと「うらやましさ」が原因の場合がある。
- ⑤「草木の緑」→「安全/許可」：
草木の緑に動物は身を隠すことが出来て安全であり、許可を表す色として使える。
- ⑥「若さ」→「未熟」：
若い人は、未熟である場合が多い。
- ⑦「若さ」→「元気」：
若い人は元気である。
- ⑧「若さ」→「未経験」：
若い人は、経験がない。
- ⑨「若さ」→「幼さ」：
若い時期より前に幼い時期がある。
- ⑩「若さ」→「つやのある美しさ」：
若い人の髪の毛はつやのある美しさがある。
- ⑪「元気」→「性交」：
元気な人は性欲旺盛である。

上記の連想による派生は別の根拠も考えられるが、始原的意味からの派生の日英共通のチャートを作ることによりその比較が可能になることを前提とした派生であることを付記しておく。

前述の連想による派生から以下のチャートが作成される。

草木の緑 →若さ →未熟
(g) (c)
→元気 →性交

(a) (h)
→未経験
(f)
→「幼さ」
(ア)
→「つやのある美しさ」
(イ)

→新鮮さ
(b)
→嫉妬
(e)
→うらやましさ
(d)
→安全/許可
(i)

図1 「みどり」, 「GREEN」の象徴的意味のチャート

日本語：「 」あり，明朝体表記，(ア) (イ)

英語：「 」なし，ゴシック体表記，(a) ~ (g)

第3節の日英色彩語の「みどり」と「green」の象徴的意味のリストと、本節の始原的意味の設定と象徴的意味のチャートを概観することにより、両者の共通点、相違点がいくつか挙げられる。

[分析Ⅰ] 共通点

- ①両言語の「みどり」と「green」は象徴的意味を持つ。
- ②両言語とも始原的意味は1つで「草木の緑」が共通している。
- ③両言語共、象徴的意味は始原的意味「草木の緑」から派生される語群に含まれる。
- ④日本語の「幼さ」、「つやのある美しさ」と、英語の「元気」、「未熟」、「未経験」、「性交」は、「若さ」からの派生群に含まれるのが特徴的である。「みどり」の象徴的意味数2つのうち全部と、「green」の象徴的意味数9つのうち「若さ」も含めると5つとなる。

[分析Ⅱ] 相違点

- ①日本語特有の象徴的意味数は2つあり、それらは「幼さ」、「つやのある美しさ」である。
- ②英語特有の象徴的意味数は9つあり、それらは「元気」、「新鮮さ」、「未熟」、「うらやましさ」、「嫉妬」、「未経験」、「若さ」、「性交」、「安全、許可」である。
- ③両言語において、重なり合う象徴的意味はない。

分析Ⅰ、Ⅱの語義数について表で示せば、次の通りである。

表1 「みどり」, 「green」の日英対照表

	日本語	英語
始原的意味数	1	1
象徴的意味数	2	9
連想群「草木の緑」	2	9
異なる象徴的意味数	2	9
共通する象徴的意味数	0	

次に他の色彩語との類似性について述べる。日英色彩語の共通する象徴的意味数からをみると、野中・斎論文(1999)では「赤, red」が9語, 「白, white」が3語, 野中論文(2002)では「青, blue」の共通する象徴的意味数は0語, 「黒, black」が5語となり, 多い順に並べてみると, 「赤, red」(9) > 「黒, black」(5) > 「白, white」(3) > 「青, blue」(0)となった。従って類似性も高い順に「赤, red」, 「黒, black」, 「白, white」, 「青, blue」になると考察した。では本稿の「みどり, green」が加わるとどうであろうか。

次に野中論文³⁾より「青, blue」の日英対照表を示す。

表2 「青」, 「blue」の日英対照表

	日本語	英語
始原的意味数	2	1
象徴的意味数	10	11
連想群「青空」	6	11
〃 「草木の青」	4	0
異なる象徴的意味数	2	9
共通する象徴的意味数	0	

「みどり, green」, 「青, blue」とも「共通する象徴的意味数(0)」, 「異なる象徴的意味数(日本語2, 英語9)」が同じである。しかしながら始原的意味が「みどり, green」は「草木の緑」の1つで「青, blue」が「青空」, 「草木の青」の2つとなっている。これは「みどり, green」が「青, blue」より類似性が高いことを示唆する。さらに, 日本語「みどり」の象徴的意味「幼さ」であるが, 「若さ」からの連想の派生がほぼ同義に近い。このことから「みどり, green」の方が「青, blue」より類似性が高いと言えるのではないか。

以上のことから, 日英色彩語の類似性については, 類似性の高い順に「赤, red」, 「黒, black」, 「白, white」, 「みどり, green」, 「青, blue」であると考察する。

結 語

本稿では, 日英色彩語「みどり」と「green」の象徴的意味を比較・分析する方法として, 始原的意味を

3つの設定条件より設定し, その派生図をもとにして, 両言語の比較が行われた。以下の点が指摘された。

- (1) 始原的意味の共通点と相違点:
両言語とも始原的意味は1つで「草木の緑」が共通している。
- (2) 両言語の色彩語の持つ象徴的意味の相違:
日本語の象徴的意味は「幼さ」, 「つやのある美しさ」である。一方, 英語の象徴的意味は「元気」, 「新鮮さ」, 「未熟」, 「うらやましさ」, 「嫉妬」, 「未経験」, 「若さ」, 「性交」, 「安全」, 「許可」である。
- (3) 両言語の色彩語の持つ語義数の相違:
日本語の象徴的意味数は2つあり, 英語の象徴的意味数は9つある。
- (4) 両言語の色彩語の連想グループの分布の相違:
両言語とも始原的意味は1つで「草木の緑」が共通しており, 同一の連想群に象徴的意味が存在するが, 重なる象徴的意味はない。またチャートでは「若さ」からの派生が「みどり」は「幼さ」, 「つやのある美しさ」の2つで象徴的意味数の全部が, 「green」は象徴的意味数9つのうち, 「若さ」も含めると5つとなる。
- (5) 上記(1)～(4)の項目において類似性の高い色彩語と類似性の低い色彩語:
日英色彩語の類似性については, 類似性の高い順に「赤, red」, 「黒, black」, 「白, white」, 「みどり, green」, 「青, blue」であると考察した。

本研究により, 日英色彩語の象徴的意味の比較が容易になり, より明確になることを期待する。今まで取り扱った以外の色彩語の象徴的意味については今後のさらなる研究に委ねたい。

引用文献

- 1) 大月実: 多義語の意味分析の方法について. 大東文化大学研究紀要, 31号: 367-377, 1993.
- 2) 野中博雄, 斎孝則: 色彩語の意味分析—日英比較を中心として—. 桐生短期大学紀要, 10: 125-134, 1999.
- 3) 野中博雄: 色彩語の意味分析—日英比較を中心として—. 桐生短期大学紀要, 13: 107-116, 2002.
- 4) 松村明監修: 大辞泉. 小学館, 1995.
- 5) 松村明, 三省堂編集所編: 大辞林. 三省堂(東京), 1988.
- 6) 新村出編: 広辞苑第5版. 岩波書店(東京), 1998.

- 7) 小松英雄：日本語の歴史．笠間書院（東京），2001.
- 8) 小稲義男主編：研究社新英和大辞典第5版．研究社（東京），1980.
- 9) 小学館ランダムハウス英和大辞典第二版編集委員会編：小学館ランダムハウス英和大辞典第2版．小学館（東京），1994.
- 10) 前田富祺監修：日本語源大辞典．小学館（東京），2005.
- 11) Online Etymology Dictionary：
<http://www.etymonline.com/index.php>

A Semantic Analysis of Color Terminology: On the Comparison of Japanese (Midori) and English (Green)

Hiroo Nonaka

Abstract

This paper focuses on a semantic analysis of color terminology in both Japanese and English, and the similarities and differences in both languages are considered. The same theme concerning with the color terminologies was discussed in the Bulletin of Kiryu Junior College. This writer discussed “red” and “white” in 1999 and “blue” and “black” in 2002. The color terminology “green” is discussed in this paper.

Firstly, the words, which use “green” in their word formation and have symbolic meanings, are picked up from the dictionaries. Then “an original meaning (theoretically assumed first meaning of derivation)” of “green” is considered.

Secondly, the symbolic meanings of both Japanese and English color terminology “green” are mapped on the chart and the following similarities and differences of color terminologies in both languages are pointed out.

- (1) The similarities and differences of original meaning.
- (2) The difference of symbolic meaning of color terminology
- (3) The differences in the number of symbolic meanings
- (4) The differences in the distribution of symbolic meanings
- (5) The degree of similarity in the above observations

Lastly, the factors of those similarities and differences, and the characteristics of color terminologies in both languages are considered.

Keywords: Color terminology, Symbolic meaning, Original meaning, Derivation, Associative chart